

国語科学習指導案

指導者 岡本 恵里香

日時 令和4年11月19日(土) 第2校時 10:25~11:15

年組 中学校第3学年1組 計39名(男子19名,女子20名)

場所 中学校3年1組教室

教材 「形」菊池寛 (東京書籍3年)

教材について

本教材は、大正9(1920)年1月2日「大阪毎日新聞」に発表された、菊池寛の短編小説である。『常山紀談』拾遺卷之四「松山新助の勇将、中村新兵衛のこと」をもとにしているが、菊池が創作した部分には「若侍」が登場し、自己の象徴を軽んじて失敗した人の寓話としても読める作品である。生徒が自己の象徴とは何かを考え、称号や外見といった目に見える「形」と実力や精神面といった内面を改めて考えることを可能にする教材である。今回は、中学校学習指導要領(平成29年告示)国語第3学年のC読むこと(1)エ「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」に重点をおいて指導を行う。

生徒達は2年次に「ドラマ扇の的をつくろう」という単元で、『平家物語』「扇の的」を脚本にする活動を行った。この学習を通して、当時の文化、風習を理解し、現代と異なる当時の価値観や考えを理解し、現代と変わらない人の感情も理解することができた。本教材でも、語彙を豊かにして作品の背景を理解し、変わらない人間の姿を自己に引き付けて考え表現する姿勢を養いたい。

指導にあたっては、まず現代に馴染みのない言葉が多いため、辞書で意味調べをしてGoogleスプレッドシートに記入して「形大辞典」を作成し、共有して本文理解の足がかりとしたい。また、三間柄の大身槍、猩々緋の陣羽織、唐冠纒金の兜などの物語のキーになるアイテムはイラストや写真をワークシートに載せて、視覚的にも理解し記憶し易くなるように工夫する。これらによって、本文の空白を補って登場人物の姿をありありと想像し、寓話的な部分や人間の愚かさも読み取り易くなるだろう。自己が無意識に感じている「形」に目を向け、それを乗り越える強さを得られるよう後押ししたい。

指導目標

- ・ 自分の分からない語彙を理解し、目的に応じて媒体を選んで言葉の意味を調べて理解する力を高める。
- ・ もとになった古典と「形」を比べて、なぜ題名を「形」にしたかを考え、本文の内容に即して表現できるようにする。
- ・ 「形」とは何か、身近な「形」を考え、自己の人生に生かそうとする姿勢を養う。

指導計画(全6時間)

次	時	学習内容
1	1	・ 本文の前半（第一場面と第二場面）を読み、「形大辞典」を作成する。
2	2	・ ワークシートを使って、前半部分を理解する。
3	3	・ 本文の後半（第三場面）を読み、「形大辞典」を作成する。
4	4	・ ワークシートを使って、後半部分を理解する。
5	5	・ 「松山新助の勇将、中村新兵衛のこと」（『常山紀談』）を読み、もともなった古典と比べて作者の創作部分を理解する。
6	6	・ 「形」とは何を表しているか、なぜ作者は題名を「形」にしたのかといった問いを考え交流する。身の回りの「形」を考え表現し、ものの見方・考え方を広げる。 (本時)

本時の目標

- ・ 「形」とは何を表すか、作者はなぜ「形」という題名にしたのかを考え、本文の内容に即して表現することができる。【思考力・表現力・判断力】
- ・ 身の回りの「形」を考え、ものの見方・考え方を広げることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」との関連

生徒の既習教材と生徒の様子から歴史小説や古文も現代語訳と併記なら読めると考え、採択教科書外の教材を選ぶことができた。また、新しい受験を前に怖気そうになる生徒に自分を強くするよう見つけることを可能にする教材だと考えて採り上げた。【授業構想力】本文中には分かりづらい言葉が多いため意味調べの時間を取り、また「形大辞典」と称してGoogleスプレッドシートを活用して共同編集で作成する。これによって、ありのままの生徒の語彙や知識では読めない作品も語彙を豊かにすることで理解できると共に、目的に応じて適切な言葉の調べ方を学習することができる。生徒の深い所にある思いや考えをワークシートや発言から受け取り、共感や提案をし、文書を読む力と文学作品を自己の支えにする力を共に高めていけるようにする。【授業実践力】【授業分析・評価力】

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
導入（5分） 1. 本時の目標を2つ把握する。 2. 「形」について新兵衛が語っている部分を、グループで音読	前時で扱った、作者の創作部分に

<p>する。</p> <p>展開1 (25分)</p>	<p>着目させる。</p>
<p>【目標1】 「形」とは何か、作者はなぜ「形」という題名にしたのか、本文の内容に即して表現できる。</p>	
<p>3. 「形」とは何かを、個人で考える。</p> <p>4. 新兵衛が「形」を手に入れた時の実力や経緯を想像させる。</p> <p>5. 「利家初陣の図」を参考にして、合戦の時の若侍の動作を再現して馬に乗って槍を扱うのは難しいことを感じさせ、若侍も馬術・槍術の稽古をしていたことに気付かせる。</p> <p>6. 作者がこの作品の題名を「形」にしたのかを考え、共有する。</p>	<p>◆ワークシートの記述</p> <p>「形」が無くなったから新兵衛は死んだ、「形」を手に入れたら若侍でも勝てたという読みではなく、端的に表現されていない登場人物の実力や内面に気付いている。</p> <p>「マント事件」を紹介し、作者の「形」の捉えについて考える。</p> <p>◆ワークシートの記述</p> <p>作者が「形」という題名にした理由を考え、自分の言葉で表現している。</p>
<p>【目標2】 身の回りの「形」を考え、自己の人生に生かそうとすることができる。</p>	
<p>展開2 (17分)</p> <p>7. 身の回りの「形」と内面を考え共有する。</p> <p>8. 「形」だけでなく、中身や実力を高めることについて考え、表現する。</p> <p>まとめ (3分)</p> <p>9. 本時の学習内容を振り返る。</p>	<p>生徒にとって分かり易い例（甲子園常連校のユニフォーム等）を教師が示して、イメージを促す。</p> <p>◆ワークシートの記述</p> <p>身の回りの「形」にある外側の部分と内側の部分の両方を考え、自己に引き付けて考えている。</p>